


**スキヤネット**


**選ばれる  
デジタル  
採点システム**
**デジタル採点2**
**導入事例**

# テストの採点時間短縮を 働き方改革の第一歩に

**岐阜大学教育学部附属小中学校様**


岐阜大学教育学部附属小中学校は、岐阜大学教育学部附属小学校および中学校を前身とする、小中が一体となった義務教育学校です。2020年度から5カ年にわたり、文部科学省から「研究開発学校」の指定を受け、義務教育9年一貫の教育課程の指導方法の開発に取り組むなど、忙しさを増す教員の働き方改革を推進するために、「デジタル採点2普通紙対応版」を導入。その成果を、教頭を務める淀川雅夫先生に伺いました。

## 導入前の課題

1. 効率化促進のための設備等の導入予算は限られていた。



## 導入後の成果

新規設備投資の必要がなく、限られた予算内でスムーズに導入できた。



2. 教員の働き方改革を推進するために、既存業務の効率化を図る必要があった。

テストの採点にかかる時間が従来の1/4以下に短縮された。

さらに、教師が自ら作成する試験問題を見直すきっかけになった。


**VOICE**

「導入効果に懐疑的だった教師も、実際に使ってみて採点のスピードに驚いていました。まずは使ってみることが大事だと思います」



岐阜大学教育学部附属小中学校  
教頭 淀川 雅夫先生



新たな設備投資の必要がなく  
他社製品と比較し、コストが抑えられる  
それが導入の決め手になった

10年ほど前になりますが、ある市の教育委員会に勤務していたころからスキヤネットのマークシートのアンケート集計システムのことは知っていました。テストの採点システムもあるという話も聞いていましたし、ICT担当だったこともあり、展示会などで製品を見る機会もありましたが、当時はあまり必要性を感じませんでした。何より、新たな設備機器の導入のための予算には限りがありますし、教員の働きやすさよりも、児童・生徒のためになるかどうか優先されていたのです。

しかし、2019年に現在の職務に就いてからは、教員の働き方改革の必要性を強く感じていました。なんとか長時間労働を解消したい。そのためには業務を減らすか、効率化を図る以外ありません。何かできることはないかと考えているときに、あるセミナーの展示コーナーで「デジタル採点2普通紙対応版」を見て、あらためて話を聞き、「これはいい」と思いました。

実はそれ以前に、他社のデジタル採点システムについて説明

を聞く機会があったのですが、コストがかかりすぎて無理だと思っていた。しかし、「デジらく採点」は他社のシステムとほぼ同じような機能を持ちながら、大掛かりな設備投資も必要なく、導入コストが抑えられる。その点が決め手となりました。



320分かかっていた

4クラス分の採点が70分で完了

現在、25~26人の教師が積極活用

正式に契約して使い始めたのは令和3年度からで、導入を決める前に無料体験の期間を設けていただきました。「瞬時に正確に採点ができて、かかる時間を短縮できる」という説明をしても、「どうせ気休め程度だろう」とか、「生徒の手書きの文字を本当に正しく読み取れるのか」といった声もあり、実際に効果測定を行ったのです。その結果、**従来のやり方だと320分かかっていた4クラス・160人分の答案用紙の作成、採点、データ入力などが70分ほどで完了したのです。4分の1以下にまで短縮できたという事実はどんな説明よりも説得力があり、そのまま導入が決まりました。**

とはいえ、使い始めたばかりのころは、「システムに合わせた解答用紙をつくるのに手間がかかる」とか、「事前に各設問の得点設定などをするのが面倒だ」といった声も聞かれました。しかし、それ以上に、時間短縮の効果や、読み取りの正確さを評価する声が多く、「導入を決めてくれてありがとうございます」と、ずいぶん感謝されました。

新しいものに慣れるまでに多少の時間がかかるのはこのシステムに限ったことではありません。生徒から回収した解答用紙の読み取りがうまくいかないことも、解答用紙をつくる時のちょっとしたコツで解消できることが分かりましたし、とにかく使ってみることが大事です。**現在は、7~9年生を受け持っている教師25~26人が使用しており、採点にかかる負担は大きく軽減されています。**

教師の仕事というのは本当にいろいろあって、「テストの採点時間を短縮するくらいでは長時間労働の解消にはつながらない」という人もいます。しかし、たとえ気休め程度でも確実に減らせるところから減らしていかないと、いつまでたっても働き方は変わりません。本校ではこれを働き方改革のひとつとし、さらに業務内容の見直しや効率化を進めていく考えです。



設問ごとの正答率も一目でわかる

証明問題や記述式の設問の必要性を

見直すきっかけにも

「デジらく採点」を導入したことで、「採点に時間がかかるのは仕方がない」という思い込みが払拭され、さらに効率よくするにはどうするかという思考に変わりました。同時に、教師の振り返りのきっかけになるなど、採点時間の短縮以外の成果を感じています。

例えば、設問ごとに解答をまとめて表示でき、正答率が瞬時にわかる。この時、正答率が高いものはいいとして、低いものはな

ぜなのか？ 設問がよくなかったのか、そもそも授業で十分に理解されていなかったのか？ **自身の指導の仕方や、問い方を見直す教師が増えてきているように思います。**

導入時に、「数学の証明問題や、記述式の問題に対応できないのは困る」という声もありましたが、近い将来、AIを活用することでそうした問題の採点も可能になるのかもしれませんが、私はそこまでは必要ないと思っています。今も、記述式の解答だけ抜き出して先に採点し、残りを自動採点するという方法で十分に時間短縮ができています。大学入試の共通テストのようにすべて選択式で、数字やアルファベット1文字で解答できるような設問にすれば、さらに効率よく短時間で採点することもできるでしょう。

また、証明問題や記述式の問題というのは思考力や判断力、表現力を問うもので、そうした力が身に付いているかどうかを判断する機会が必要です。しかし、それは必ずしも試験で問わなければいけないというものではありません。普段の授業で行う小テストや提出物から判断することも可能です。実際、そうしたことに気付き始めた教師もいるようで、**問題の作り方に変化が始めているように感じます。** とくに、一定の期間内に一斉に採点・返却しなければいけない定期テストはできるだけ短時間で採点を終わらせる必要があり、設問の見直しが進んでいるようです。



採点後の分析データを

生徒指導に活かすのが今後の課題

他校での活用もすすめたい

「デジらく採点」は、採点結果からさまざまな分析ができるのですが、まだその活用には至っていません。設問毎の観点・分野別の得点のデータが出力でき、生徒一人一人の弱点の把握などにも役立つと思うので、今後、どのように生徒指導に生かしていくかが課題です。

また、教員の働き方改革への取り組みは自治体や学校によって異なりますが、少しでも改善につながる取り組みとして、他校での活用もすすめたいと思います。本校は大学附属校として「有意な教員を養成する大学の人材育成である教育実習を担う」責務があり、デジタル採点システムを活用していることは、大学生にも紹介しています。**卒業後、教師として赴任した先でデジタル採点システムが使われていなければ、ぜひ、導入を提案し、働く環境を整えてほしいですね。**

さらなる要望としては、1~6年生のテストの採点です。小学校で実施するテストは、販売業者のテストを使うのが一般的で、問題用紙と答案用紙はセットになっています。しかし、システムにあった答案用紙を作成する必要があり、セットの答案用紙が無駄になってしまう。答案用紙をそのまま使ったとしても、スキャンするという行為が許されるかどうか。

テストの販売業者もこうした採点システムが使われるということ前提にしているわけではないと思いますが、ぜひ、そのあたりをクリアにし、教育現場の働き方改革に力を貸していただきたいと思っています。

スキャンネット株式会社

<https://www.scanet.jp/>

MAIL: [info@scanet.jp](mailto:info@scanet.jp)

東京本社

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-6-2 スキャンネットビル  
TEL: 03-4582-3933

大阪営業所

〒534-0024 大阪市都島区東野田町5-2-23 京橋セントラルビル5F  
TEL: 06-6242-4477

無料体験  
キャンペーンは  
こちら▶▶



<https://www.scanet.jp/digi-rakuPP/>

